

ESG 投資の現状と課題

—プレンダーFT上級論説コラムニストとのオンライン会合—

2021年8月24日

講師：ジョン・プレンダー フィナンシャル・タイムズ紙上級論説コラムニスト

経済広報センターは8月24日、フィナンシャル・タイムズ（FT）紙の上級論説コラムニストであるジョン・プレンダー氏を招き、「FT上級論説コラムニストから見たESG投資の現状と課題」と題するオンライン会合を開催し、会員企業などから約100名が参加した。

プレンダー氏はまず、足元のESG投資拡大の要因として、個人投資家や北米からの投資が活発になっていることや、「社会貢献のための投資」から「堅実な運用のための投資」の側面が強まっている点を挙げた。

公的金融機関専門のシンクタンクでトップを務めた経験もあるプレンダー氏は、こうした傾向を企業にとって歓迎すべきものと指摘。さらに、環境汚染などの外部不経済には当局の規制が望ましいが、ロビー活動によって不十分なものとどまってしまう場合もあるため、ESG投資がそれを是正する役割を担うとした。一方、ESG投資の課題として、グリーンウォッシングや格付機関ごとに評価がばらつくといった点を挙げた。

質疑応答では、アクティビストの意見が他の株主の損害を招くことへの懸念や、ESG経営を進めた企業のCEOが業績悪化で解雇された事例について質問があった。プレンダー氏は、株主同士やステークホルダーと株主との間で生じる利害対立のなかでバランスを取ることが重要と指摘した。また、再エネの出力調整用の化石燃料の必要性に関する質問に対し、それを認めただけで、エネルギー転換には大規模資本の円滑な再配分が不可欠であり、機関投資家だけで進められるものではないと応じた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。